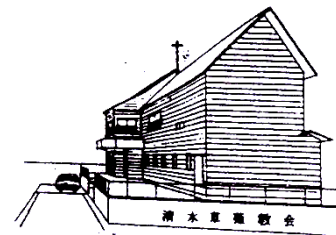


《今朝の聖書から》

先週の要点の一つですが、霊性・霊的であるといのは、神様の世界を人はこの世で体験できる性質がある・そんな体験をしているということだ、と申し上げました。今朝の聖書箇所もそれに続くかもしれませんが。“神様のトリックを解いて行くのだ”といった物理学者がいます。自然の法則の中に、人知を超える神様の仕組みを見て、体験しているのでしょう。また医者でも、人体について、その心と体を知れば知るほど、“何と神様の仕掛けは素晴らしいことか”と思うことなのでしょう。このような大いなる御手の業（詩編19では、“大空は御手の業を表す”と詠われています）は、このような神様の摂理は、旧約の世界から知られ、今日に及んでいるのです。私たちの日常にも、いや、そこで、私たちの日常にこそ、示されているのです。今朝の個所に出てきます、“魂を滅ぼすことは誰にもできない”、“神の一羽の雀の地に落ちることまで許される”、“髪の毛の数まで数えられている”などといった例は、神様の前に、いかに我々が“命をも与えられているか”を示しているのです。“神の摂理をあなたがたは知る”とイエス様は仰っているのです。“従って、あなたがたは計画に従って召された者たちとして（10：31）恐れることはない”と語られるのです。これこそが主を知る知識なのです（ローマ8：28）。けれども、主の計画に背を向けることも私たちは知っているのです。“魂まで滅ぼしてやろう（38節）”とか“神様の雀を売り買いしよう（29節）”などとしているのが、神様の計画に背を向けた生き方なのです。このように、あたかも神様の世界などないのだという生き方もできそうなのですが、それは無力で、苛立ちの多い、地に落ちた雀を生き返らないことを、何とかしようとしている姿に似ているというのです。イエス様の教えは続きます。“恐れることはない”というのです。そのカギになるのが“人の前でわたしを受け入れる（32節）証”なのです。その反対が“人の前でわたしを拒む者”の姿なのです。私たちの世界は神様の世界ですから、また神様は、受け入れる人々の姿を通して、ご自身を掲示されるのです。神様と人の前でキリストなどいないと言って、主を拒む者を、神様の前でもイエス様は拒むと仰っているのです（33節）。“人の前で”というのは今のことです。

週報

2008年 10月 26日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp